

目標3「すべての人に健康と福祉を」

～健康的な生活を確保し、福祉サービスを促進する～



世界では、予防接種やワクチン接種などの適切な治療を受けられないため、毎年約560万人、5秒に1人の割合で5歳になる前の子どもが命を落としています。また、基礎的な医療を受けられない人は、世界の人口の半分近い約36億人もいるといわれています。

世界トップクラスの長寿国である日本も、今後、少子高齢化が進行すると、受診者・医療費の増加に対して、その医療費を負担する若い働く世代が減ることになり、医療・保険制度の確保が難しくなる可能性があります。

いつまでも健康で日常生活を送ることができるよう、一人ひとりが健康意識を高めることにより医療費の増大を抑えることで、日本の恵まれた医療制度の維持につながります。

私たちにできること

- ☐ 栄養バランスの良い食事をとる
- ☐ 通勤や通学は、徒歩や自転車にする
- ☐ 手洗いやうがい、消毒で風邪や感染症を予防する
- ☐ 予防接種や健康診断を受ける

など

目標4「質の高い教育をみんなに」

～すべての人に平等な質の高い教育と生涯学習の機会を提供する～



貧困や紛争などにより、5歳から17歳までの子どものうち、学校に通えていない子どもが世界中で約3億300万人もいます。また、教育を受ける機会がなく、読み書きができないまま大人になる人が約7億7,000万人以上もいるといわれており、その3分の2を女性が占めています。

一方、日本では、義務教育を受ける機会がありますが、不登校やいじめ、経済状況などによって、その機会を奪われている子どももいます。教育を受けられないことで、将来、就職や収入の格差が生じ、それを親から子へと引き継いでしまう「貧困の連鎖」に陥る可能性があります。

教育を受けることは、貧困から脱却し、安定的な生活を送るために大切なものです。誰もが分け隔てなく教育を受けられる環境をつくることで、男女格差や貧富格差の解消にもつながります。

私たちにできること

- ☐ 本や新聞を読む習慣を身につける
- ☐ いじめをしない・させない
- ☐ 学習支援のボランティアに参加する

など

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

目標5「ジェンダー平等を実現しよう」

～ジェンダー平等を達成し、すべての女性にエンパワーメント（能力開花）を～



ジェンダーとは、社会的・文化的な役割の違いから生まれる「性別」のことをいいます。

世界では、女性や女兒が人身取引や暴力、差別を受けており、また、毎年約1,200万人の女兒が18歳未満での結婚を余儀なくされるなど、依然としてジェンダーの不平等が続いています。

日本も例外ではなく、各国の男女格差を比べた「ジェンダーギャップ指数」によると、日本の順位は153カ国中121位で、分野別で見ると、教育や健康分野の順位は高めですが、経済分野（管理職の女性の割合や所得など）や政治分野（女性議員の割合など）は非常に低く、男女格差は大きく開いています。

男性・女性などで区別することなく、一人ひとりが意識を変え、立場が違っても人への理解を深めることで、ジェンダー平等の実現につながります。

私たちにできること

- ☐ 「女性だから」「男性だから」といった偏見をなくす
- ☐ 家事や育児など、家族で協力して取り組む
- ☐ 男性も積極的に育児休暇を取る
- ☐ 女性も男性も働きやすい職場環境をつくる

など